

日本たばこ産業株式会社

Corporate
Brochure

会社案内 2026



JT Group Purpose

心の豊かさを、もっと。

私たちJTグループは、これまでずっと、
心豊かに生きるための「とき」と向き合ってきました。

科学やテクノロジーの進化、価値観の多様化。
どんなに時代が変わっても、私たちは、
今ここにある何気ない瞬間にも喜びを見つげられる、
心の豊かさを大切にしたいと思っています。

ありのままの自分を認められる「とき」
大切なひとと喜びを共有する「とき」
それぞれを認め合って、高め合って過ごす「とき」
そんな素晴らしい「とき」の積み重ねが、
素晴らしい毎日をつくり、素晴らしい人生をつくる。
そしてきっと、社会、世界、未来までをも、よりよくしていく。

JTグループは、提供してきた心の豊かさを、次のステージへ。
より多くのお客様やパートナーと、さまざまな事業や取り組みを通じて、
社会に心の豊かさを育んでいきます。

「今日もよい一日だった」と感じられる心豊かな社会のために、
私たちができることのすべてを。

たばこ事業
Purpose

Creating fulfilling moments.
Creating a better future.

加工食品事業
Purpose

食事をうれしく、食卓をたのしく。

トップメッセージ

Message from CEO



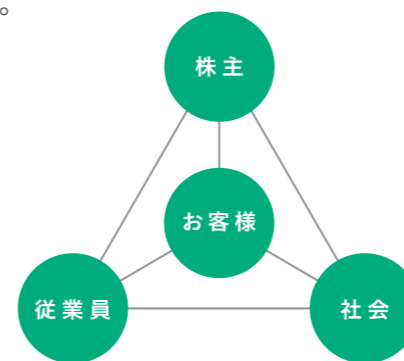
JTグループは、これまでグローバル化や事業構造改革などをはじめ、自らの主体的意思により自己変革を行ってきました。当社を取り巻く事業環境は、今後も厳しさを増すとともに、かつてない規模とスピードで変化が進行するものと捉えております。これからも、事業環境の変化に対して、これまで以上にスピード感をもって臨み、乗り越えていくため、組織基盤の一層の強化に取り組んでまいります。

この、自然・社会・個人のさまざまなスケールで非連続な変化が起これ、事業環境の不確実性・複雑性がますます高まっている状況において、当社グループが

持続的な存在であり続けるための方向性を明確にするものとして、JT Group Purposeを策定しております。具体的には、当社グループが未来において社会から求められ、かつ、長期にわたり価値を発揮し続けていくべき領域を「心の豊かさ」と同定し、この領域を任され、貢献し続けていきたいとの考えから「心の豊かさをもっと。」をJT Group Purposeとしてしています。

JT Group Purposeの実現のために必要なことは、お客様視点を起点とした行動変革にあり、JTグループの経営理念である4Sモデルをさらなる高みに発展

させていくことが重要と認識しています。4Sモデルとは、「お客様を中心として、株主、従業員、社会の4者に対する責任を高い次元でバランスよく果たし、4者の満足度を高めていく」ことを掲げたJTグループの経営理念です。



時代や人により、多様で、変化していく「心の豊かさ」の領域を、今後も社会から任され、貢献できる存在であり続けるため、JTグループは絶えず進化してまいります。

代表取締役社長 筒井岳彦

JTグループの軌跡

Our History

1985年 ▶ 1999年 ▶ 2007年 ▶ 2008年 ▶ 2013年 ▶ 2015年 ▶ 2016年 ▶ 2020年 ▶ 2022年 ▶ 2024年 ▶ 2025年 ▶

日本たばこ産業(株)設立

RJRナビスコ社の米国外たばこ事業を買収

ギャラハー社を買収

(株)加ト吉および富士食品工業(株)を買収

「マイルドセブン」から「メビウス」へ名称変更

「キャビン」「キャスター」を「ウィンストン」に統合

「ナチュラル アメリカン スピリット」の米国外たばこ事業を取得

本社移転

たばこ事業運営体制を一本化

Vector Group Ltd.を買収

「プルーム・オーラ」および「エボ」を発売

専売制の廃止により、日本たばこ産業(株)を設立。1988年 コミュニケーションネーム「JT」を導入。1990年までの間に食品などの事業部も設置し、今に続く事業基盤を構築。



当時世界最大規模のM&A。世界的な2大ブランド「ウィンストン」「キャメル」を仲間に迎え、世界第3位のたばこメーカーへと躍進。



ヨーロッパで広くたばこ事業を行っていた、ギャラハー社の全株式を取得。世界規模のブランド「LD」「ベンソン・アンド・ヘッジス」「グラマー」「ソプラニー」「シルクカット」を加え、世界第3位のグローバルたばこメーカーとしての地位を強化。



1999年 旭化成工業(株)の食品事業を取得。2008年 (株)加ト吉および富士食品工業(株)の発行済株式の過半数を取得し、冷食・常温事業、調味料事業を展開。2010年 (株)加ト吉の社名を「テーブルマーク(株)」へ変更。



グローバルNo.1プレミアムブランドへのさらなる躍進に向け、「マイルドセブン」の名称を「メビウス」に変更。強固なブランド力を活かして、世界での販売網を拡大。



国内ロングセラーブランドの「キャビン」「キャスター」を、グローバル・フラッグシップ・ブランドの「ウィンストン」に統合。幅広い味わいのラインアップを持つブランドへと生まれ変わり、世界の多様なお客様の嗜好に応え地理的拡大・成長を推進。



米国レイノルズ・アメリカングループより、「ナチュラル アメリカン スピリット」の米国外たばこ事業を取得。無添加というユニークな特長を持つブランドをJTグループに加え、多様なお客様ニーズに対応。



より一層のスピーディかつ質の高い事業運営体制の構築およびイノベーション創出・生産性向上を目的とし、虎ノ門JTビル(現 住友不動産虎ノ門タワー)から神谷町トラストタワーへ本社を移転。社内外の交流・協業を促進させる柔軟なワークプレイスを整備。

たばこ事業において、事業環境の変化への対応を強化し、持続的成長を目指していく観点から、競争力・収益力強化に向け、海外たばこ事業と国内たばこ事業の2事業体制を、2022年1月より一本化。

米国においてたばこ事業を展開するVector Group Ltd.の全株式を取得。収益性の高い米国市場におけるJTグループのプレゼンスを拡大。



“味わい”を中心に進化した、加熱式たばこデバイス「プルーム」ブランドの最新モデル「プルーム・オーラ」、JT史上初となる加熱式たばこ専用のプレミアムブランドで、プルーム専用たばこスティック「エボ」を同時に発売開始。



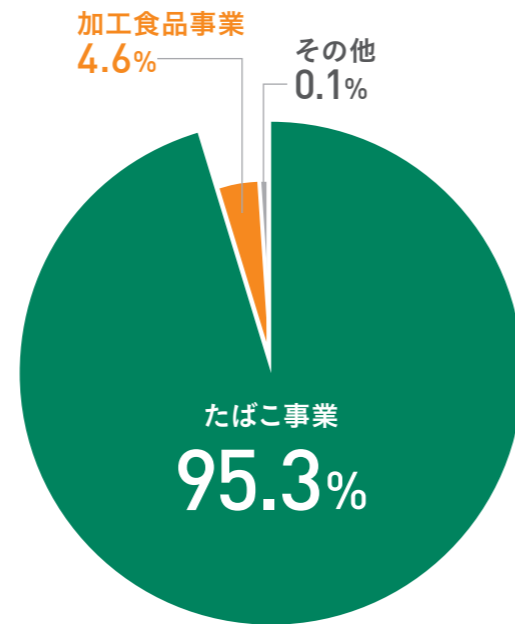
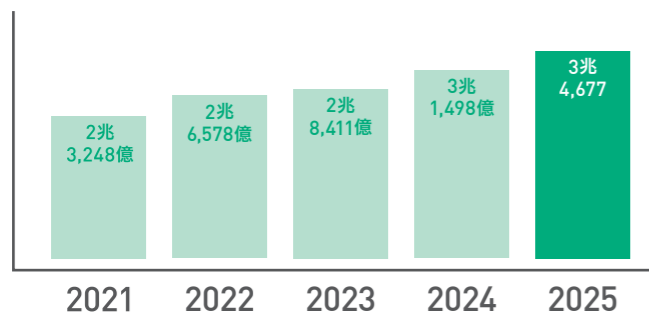
事業関連データ

Financial Information

売上収益

(2025年1月-12月)

合計 **3兆4,677** 億円

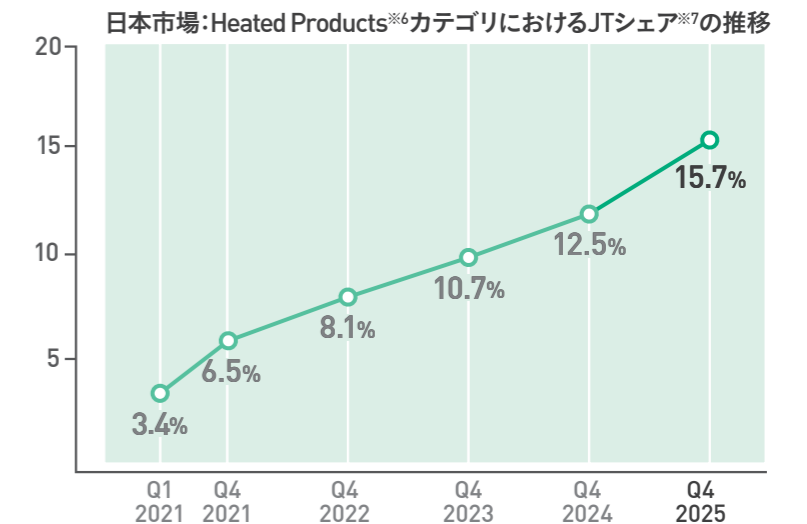


たばこ事業トピックス

(2025年1月-12月)



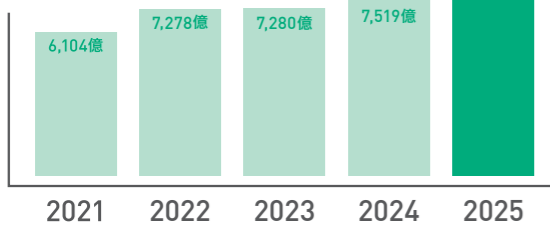
RRP販売数量^{※5} **140** 億本



調整後営業利益^{※1}

(2025年1月-12月)

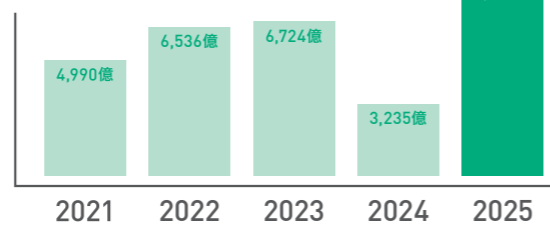
合計 **9,022** 億円



営業利益

(2025年1月-12月)

合計 **8,670** 億円



※2025年度において、塩野義製薬株式会社への当社医薬事業の承継および当社が保有する鳥居薬品株式会社の株式を譲渡したことから、医薬事業を非継続事業に分類しております。したがって、2025年度の売上収益、調整後営業利益、営業利益は、継続事業の数値を掲載しております。詳細は、以下をご参照ください。
https://www.jti.co.jp/investors/library/press_releases/pdf/2025/20251201_01.pdf
https://www.jti.co.jp/investors/library/press_releases/pdf/2025/20250901_01.pdf

※1 調整後営業利益: 営業利益+買収に伴い生じた無形資産に係る償却費+調整項目(収益および費用)
 *調整項目(収益および費用)=のれんの減損損失+リスストラッキング収益および費用など

※2 総販売数量: 製造受託/RRPデバイスおよび関連アクセサリーを除くたばこ製品の販売数量
 ※3 Combustibles販売数量: 製造受託/RRPを除く可燃性のたばこ製品の販売数量
 ※4 GFB販売数量: GFB(Global Flagship Brand)に含まれる「ウィンストン」「キャメル」「メビウス」「LD」のCombustiblesおよびSnus製品の販売数量
 ※5 RRP販売数量: Reduced-Risk Products(RRP)の販売本数(紙巻たばことして換算)。デバイス/関連アクセサリーなどは含まない *喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
 ※6 Heated Products: デバイスによってスティックを直接加熱する製品
 ※7 JT推計(出荷ベース)

たばこ事業

Tobacco Business

グローバルたばこカンパニーとして
世界中で事業を展開しています

JTグループは130以上の国と地域でたばこ製品を販売しています。不確実性の高い事業環境下においても、ブランドを最大の財産として、将来の成長に向けた積極的な事業投資を実行しつつ、着実な利益成長を実現しています。また、近年では、リスク低減製品^{※1} (RRP^{※2})をはじめとするイノベーションにも注力しています。

※1 リスク低減製品:喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
※2 RRP:Reduced-Risk Products



リスク低減製品 (RRP)/Combustibles^{※3}双方に注力し、着実な利益成長を実現

JTグループは、各市場でのオーガニック成長と、それを補完するM&Aなどを通じた地理的拡大によって、グローバルたばこカンパニーとしての確固たる地位を築き上げてきました。たばこ事業は利益成長の中核かつ牽引役として、中長期にわたる持続的な利益成長に向けた事業基盤の強化に取り組んでいます。



※3 Combustibles:製造受託/RRPを除く燃焼性のたばこ製品

競争力のあるブランドを武器に、世界中でプレゼンスを向上

JTグループは、世界各地における多様なお客様ニーズにお応えする幅広いブランドを保有しています。なかでも、グローバル・フラッグシップ・ブランド (GFB) の「ウィンストン」「キャメル」「メビウス」「LD」は、世界でも有数のたばこブランドであり、JTグループのブランドポートフォリオの中核を形成しています。



一歩先の美味しさと心地よさのために、
加熱式たばこがもたらす愉しみの
未来をつくります



共存できる社会の実現に向けて
さまざまな取り組みを
行っています



多様なニーズに合わせた選択肢を提供

JTは加熱式たばこカテゴリーにおいて、「プルーム」と「ウィズ」を展開しています。多様なニーズに合わせた選択肢を提供することで、お客様満足度のさらなる向上と、JTが目指す共存社会の実現に貢献できると考えています。

「プルーム」

「プルーム」は、“いちばん旨い”一服をお届けするという信念のもと、進化を続ける加熱式たばこブランドです。旨さの源泉となるブレンド、それを最大限に引き出す加熱技術、そして存分に味わうためのデザイン。これらすべてにこだわり抜くことで満足感のある味と香り、そして豊かな時間を提供します。

「ウィズ」

「ウィズ」ブランドは、価値観やライフスタイルがますます多様化する時代だからこそ、“周囲との心地よい関係と自分だけの時間やリズム、そのどちらも大切にしながら自然体でいること”を提案します。「ウィズ2」は、インフューズドテクノロジー※により「加熱待ち時間ゼロ」、「たばこのおいさをほぼ感じない」、「雑味のないフレーバー」を実現し、周囲に配慮しながら喫煙を愉しむことを提供します。

※コーヒーやお酒で使用されている、香りを染み込ませる技術をヒントに、霧化したリキッドがたばこ顆粒の入ったカプセルを通過してたばこペーパーを発生させる技術

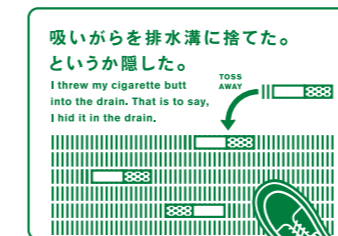


共存に向けた取り組み

たばこを吸われる方とたばこを吸われない方が共存できる社会の実現のため、マナー向上の呼びかけや分煙環境の整備など、さまざまな活動を行っています。また、周囲への配慮という観点において、私たちは、たばこ葉を燃焼させない新しいスタイルのたばこ製品に取り組むことで、副流煙の出ない製品、周囲の方々が迷惑だと感じる独特なおいが出ない製品、空気環境に影響を与えない製品を開発し、お客様に提供していきます。

マナー向上に向け さまざまな啓発活動を展開

たばこを吸われる方がマナーの大切さに、“気づき”“考え”“行動”していただけるように、身近なシーンやテーマを紹介するマナー広告を展開しています。また『『ひろろ』体験を通じて『すてない』気持ちを育てたい』という願いのもと、全国各地で「ひろろ街が好きになる運動」という市民参加型の清掃活動も行っています。



マナー広告

皆様が快適に過ごせる 分煙環境の整備

分煙に関するさまざまなご相談にお応えする分煙コンサルティング活動をはじめ、これまで培ったノウハウを生かし、たばこを吸われる方と吸われない方、双方に配慮した分煙環境の整備に取り組んでいます。JTはこれからもたばこを吸われる方と吸われない方が、ともに快適に過ごせる社会を目指した環境づくりに取り組んでいきます。



築地川祝橋公園



ひろろ街が好きになる運動



虎ノ門ヒルズ

加工食品事業

Processed Food Business

「食」を通じて、“心豊かなひととき”を
生み出しつづけます

加工食品事業では、お客様の日々の暮らしを見つめながら、食に関するさまざまな課題と向き合い、お客様の食事をよりうれしく、食卓をよりたのしくできるような存在を目指してまいります。



「食」を通じて、日常の幅広いシーンで価値を提供

加工食品事業では、おいしさと利便性を両立した商品を提供しています。

冷蔵・常温事業はテーブルマーク(株)を中心として、日常の食卓から外食まで幅広いシーンを支えており、冷凍のさぬきうどん、お好み焼、肉だんご、常温のパックごはんなど、主力商品のブランド価値を継続的に向上しています。

調味料事業は富士食品工業(株)を中心として、外食産業向けにはラーメンスープの素や香味油などを提供し、加工食品メーカー向けに酵母エキスを中核とした製品をお届けしています。海外にも製品を展開し、幅広い分野の味づくりを支えています。

TableMark



安全・安心で高品質な商品の提供

フードセーフティ

国内外の自社グループ工場では、食品安全マネジメントシステムの国際規格であるFSSC 22000を取得*し、工場からお客様へ安全な商品をお届けしています。



* 2026年に稼働した海外一工場は、認証取得準備中

フードディフェンス

製造工程や製品に対する意図的な攻撃を防ぐため、独自のガイドラインを設定し、セキュリティ面を強化しています。



フードクオリティ

おいしさを追求した商品をお届けするとともに、お客様満足度、品質管理機能の実効性の向上に日々取り組んでいます。



フードコミュニケーション

お客様からのご質問にお答えするだけでなく、商品を製造した工場や主な原料の産地も開示し、お客様とのコミュニケーションを推進しています。



コーポレート R&D: D-LAB

Corporate R&D:D-LAB

「心の豊かさ」の実現に向け、
長期視点でイノベーションを推進しています

JT Group Purpose「心の豊かさをもっと。」の具現化に向けて、D-LABは長期的な視点のもと、まだ見ぬ「心の豊かさ」の研究・探索・創造を推進しています。「心の豊かさ研究」と「心の豊かさを起点とした事業の探索・創出」という2つの柱を軸に活動を展開。JTグループがこれまで大切にしてきた価値を、数十年後の未来においても人びとに届け続けるため、さまざまな取り組みを進めています。



「心の豊かさ」という価値の多角的な研究

大学との産学連携やパートナー企業との協業を通じて、「心の豊かさ」という新たな価値軸の理解を多面的に深めています。また、最先端のサイエンス&テクノロジーを活用した革新的なソリューション開発にも取り組んでいます。休息の質に着目した研究から生まれた呼吸誘導型ロボットクッション「fufuly(フフリー)」の商品化を実現。さらに、「心豊かなひととき」へと誘う「日常の小さなハテナ」に着目し、複数のプロダクトを“柔らかな驚きを届ける実験装置”として世に送り出す実験的プロダクト開発も行っています。



「心の豊かさ」事業探索・創出

「心の豊かさ」に関わる市場理解を深めるとともに、産業や領域の枠を超えた新たな「心の豊かさ」事業の創出に挑戦しています。たとえば、深い呼吸の習慣化をサポートする「嗅ぐ深呼吸」の新商品「REBOO(リブー)」や、ノンアルコール飲料の新たな体験を提案する「COLDRAW(コールドロー)」など、多様な取り組みを通じて、「心の豊かさ」につながる事業の可能性を具現化しています。



サステナビリティ

Sustainability

自然・社会とともに持続的に成長していくために
さまざまな取り組みを行っています

人の暮らしや社会、企業の活動というあらゆる人の営みは、生態系を紡いでいく一部であり、JTグループは、未来づくりを担う企業として、ステークホルダーの皆様とともに持続可能な自然や社会づくりに主体的に取り組んでいきます。



JTグループのサステナビリティの取り組み

「4Sモデル」の追求を経営理念とするJTグループにおいて、自然・社会とそこに存在するJTグループの事業双方のサステナビリティ実現に向けた取り組みは、経営の根幹をなすものです。

JTグループは、「自然や社会が持続可能であって始めて、人の暮らしや企業の活動も持続可能となる」という考えのもと、JT Group Purposeの具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくために、JTグループとして優先的に取り組む重要課題、JT Group Materiality (マテリアリティ) を特定し、マテリアリティを踏まえた具体的な目標および取り組みとしてJT Group Sustainability Targets を策定しています。

今後とも、自然・社会とJTグループの事業の持続的な成長に向けて着実に歩みを進めていきます。

(詳しくは、当社ホームページをご覧ください)

※ https://www.jti.co.jp/sustainability/strategy/materiality_strategy_sdgs/index.html

JT Group Materiality

自然や社会と人の暮らしはつながっており、自然や社会が持続可能であって始めて、人の暮らしや企業の活動も持続可能となります。
JTグループはJT Group Purposeの具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくために、以下のマテリアリティ (重要課題) に取り組んでいます。



JTグループの サステナビリティの 取り組み



自然との共生

JTグループは、自然環境に与える影響の改善に向けた取り組みを通じて、自然と人や企業の健全な関係性を保全していくことが重要と認識しています。

「人の暮らしや社会、企業の活動、あらゆる人の営みは、生態系を紡いでいく一部である」という考えから、これまでの環境に関連する当社グループの取り組みを生態系という観点から見つめ直すとともに、生物多様性の観点も踏まえ、当社グループの事業が生態系に及ぼし得る、その復元力を超える負の影響を解消していくことを目指します。

温室効果ガス排出の 削減への取り組み

フィリピンのバタンガス工場では、東南アジア最大規模を誇る、約17,000枚の太陽光パネルを導入し、温室効果ガス排出量を約15%、年間で6,887トン削減しております。



バタンガス工場(フィリピン)

バイオマスプラスチック活用による 環境負荷低減への取り組み

パックごはんの一部製品において、自社グループで発生した碎米を10%配合した、地上の二酸化炭素の増減に影響を与えないカーボンニュートラルの性質をもつ国産バイオマスプラスチック「ライスレジン®」*を外装フィルムの一部原料として活用しています。



*「ライスレジン®」: 株式会社ライスレジンの登録商標。食用に適さない古米、精米時に発生する碎米などを、新しいテクノロジーでプラスチックへとアップサイクル(廃棄物や不要になった物に手を加えて、その価値を高めること)

責任あるサプライチェーンマネジメント

JTグループの事業を支えるサプライチェーンが持続的なものとなるよう、サプライヤーやサプライヤーの属するコミュニティが直面する社会課題に、JTグループも協働して取り組んでいくことが必要であると考え、さまざまな取り組みを進めています。

児童労働撲滅への取り組み

2011年からARISE*を通して、葉たばこ耕作コミュニティにおける児童労働の撲滅に取り組んでいます。ブラジル、マラウイ、ザンビア、タンザニアに加え、2022年には、エチオピアとバングラデシュにも展開を拡大しました。2024年までに75,844人の子どもたちが学校に通えるようになりました。

* ARISE: Achieving Reduction of Child Labor in Support of Education



プログラムを通じて学校に通う子ども(マラウイ)

コミュニティインベストメント(社会的責任の発揮)

JTグループは事業を展開する国・地域社会の包摂的かつ持続可能な発展を目指し、「格差是正」「災害分野」「環境保全」の3つを重点領域とし、グローバルな社会課題および地域特有の課題を踏まえたプログラムを、国内外のさまざまな団体とのパートナーシップを通じ実施しています。

国内外の団体と協力し 被災地支援や防災活動を実施

各国政府やNGOと協力し、世界中の被災地への支援を通じて、自然災害や人的災害など、さまざまな原因で苦しむ人々が安心して生活を送るための長期的なサポートの提供に努めています。



特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンとのパートナーシップ
©ピースウィンズ・ジャパン

全国で森林保全活動を展開

地域社会への貢献の一環として、従業員自らも参画し元気な森を育てる活動を行っています。社有林や、手入れが不足している森を一定期間借り受けて、森づくりを支援する「JTの森」を全国7ヶ所で展開しています。



JTの森 重富での環境保全活動

スポーツ・文化支援

Sports & Culture

さまざまなスポーツ・文化支援を通じて
感動をお届けしています

男女バレーボールチームの、勝利へのひたむきな姿勢や迫力あるプレーをはじめ、「将棋日本シリーズ JTプロ公式戦/テーブルマークこども大会」「ゴルフ日本シリーズJTカップ」など、さまざまなイベントを通じて、JTは全国各地の皆様へ感動をお届けしています。



バレーボールを通じて皆様に 最大の感動をお届けします

「広島サンダース(男子)」は1931年に、「大阪マーヴェラス(女子)」は1956年に創部された、国内屈指の伝統と実力を兼ね揃えたバレーボールチームです。

これまで、国内トップリーグの「SVリーグ」や「天皇杯・皇后杯」でタイトルを獲得するとともに、毎年数多くの日本代表選手を輩出するなど、男女ともに輝かしい実績を上げています。



広島サンダース(男子)



大阪マーヴェラス(女子)

将棋を通じて ひとりひとりの限らない可能性を応援

「将棋日本シリーズ」は全国11都市で開催しています。「JTプロ公式戦」は、1980年に始まり、今年で47回を迎える伝統ある棋戦です。前年度JT杯覇者、タイトルホルダーおよび賞金ランキング上位のトップ棋士12名による公開対局をお届けしています。

また、同日同会場で行われる「テーブルマークこども大会」には、小学生以下なら誰でも参加することができます。

将棋日本シリーズ
JTプロ公式戦 / テーブルマークこども大会



2025年度JTプロ公式戦

最高峰のスポーツイベントを サポート

男子ゴルフツアーのメジャー最終戦「ゴルフ日本シリーズJTカップ」は、半世紀を超える歴史と伝統を持ち、今年で63回目を迎えます。

賞金王争いにも注目が集まる国内最高峰の大会として、これまで数々の名勝負が生まれてきました。今年も厳しい出場条件をクリアした30名のトッププレーヤーたちが、王者の中の王者を決めるべく、白熱した戦いを繰り広げます。



ゴルフ日本シリーズJTカップ



第62回ゴルフ日本シリーズJTカップ

さまざまな視点から 地域活性化を考える

Rethinkフォーラムは地域社会の課題解決に向けて、住民や自治体の方々とともにディスカッションをするイベントです。

毎年全国の各会場で、さまざまな方面で活躍されている方々を講師に招き、集客型と非集客型の2つの形態で展開しています。



Rethinkフォーラム会場の様子

人財マネジメント

Human Resources Management

多様な人財が能力を最大限に発揮できる
組織づくりを進めています

JTグループでは、人的資本の拡充に向け、社内外における多様な人財を惹きつけるとともに、いきいきと働ける組織づくり、さらには一人ひとりの成長と能力の発揮を後押ししていく観点から、6つの注力テーマを設定しています。



DE&Iの推進

全世界で100以上の国籍の従業員が働いているJTグループでは、従業員の人種、宗教、民族的出自、出身地、ジェンダー、年齢、障がいの有無、性的指向、配偶者の有無、そして経験、専門性といったさまざまな違いを価値として捉えています。そして、多様な人財が、属性や価値観の違いにかかわらず公正に扱われ、継続的に活躍できる環境づくりに取り組んでいます。

働きやすい環境の整備

JTグループでは、従業員一人ひとりがその能力を最大限発揮し、組織パフォーマンスにつなげることができるための労働環境を整備することが重要と考えています。勤務場所・時間等の制約・働き方の志向性にかかわらず、従業員が自らに合った働き方を自律的に選択できる制度を整備し、心理的安全性の高い職場づくりに取り組んでいます。

心身の安全・健康の推進

JTグループでは、従業員一人ひとりが持てる能力を最大限発揮することが不可欠であるとの認識のもと、誰もが心身ともに健康で安全にいきいきと働くことができる職場環境の整備を進めています。そのため、JTグループ労働安全衛生ポリシーで掲げる労働災害ゼロを目指し、安全意識の向上等の各種施策を実施しています。さらに、従業員の健康の維持・増進に向けたさまざまな健康支援施策にも注力しています。

社内外との共創の促進

企業や組織の枠を越えたさまざまな視点や知見を結集し、これまでにない新たな心の豊かさを生み出すための活動を促進しています。従業員間の交流と協業を促すためのオフィスデザインを取り入れ社内共創を生み出すと同時に、組織や従業員に対しても、多岐にわたる社外関係者の方々との積極的な共創を奨励しています。

人財の戦略的な確保

グローバルで複数の事業を展開しているJTグループの持続的な成長に向けて、経営や各事業をリードする人財、事業を拡大・最適化する人財、社会に対する新たな価値領域を探求するための人財の獲得・成長支援に取り組んでいます。選抜型の早期育成制度においては、将来の経営者候補として全世界に広がるさまざまなポジションでの多様なリーダー経験を提供しています。



自律的な成長の支援

従業員一人ひとりが、JTグループでの活動を通して自らが志向するキャリアを実現するべく、従業員が自律して自らのキャリアについて考える、選択する、個々のキャリアプラン実現に向けて行動する機会の創出に取り組んでいます。希望する組織やポジションへの異動に自ら応募できるキャリア施策に加え、それぞれの成長ニーズに応える学習機会を提供しています。



コンプライアンス

Compliance

高い倫理観を持って 事業を運営しています

JTグループでは、コンプライアンスの実践を経営の重要な課題と位置付け、高い倫理観を持った事業運営に努めています。すべての従業員に対し行動規範を周知、徹底するとともに、コンプライアンス意識醸成のための研修啓発、相談・通報制度の整備など、コンプライアンスの推進に取り組んでいます。



JTグループ行動規範の遵守を徹底

JTグループでは、コンプライアンスを「JT Group Purposeを共有し、より良き企業人、より良き社会人であるために求められる価値観・倫理観に基づいた行動の実践」と定義し、グループ共通の価値観・倫理観を「JT Group Compliance Policy」としてまとめています。その実践にむけて、コーポレート部門・各事業において「JTグループ行動規範」として具体化し、私たちの日々の行動の基準としています。

また、「JTグループ行動規範」に違反する行為などに関する問題を適切かつ迅速に解決・改善するために、社内と社外に相談・通報窓口を設置し、運用しています。



※日本国内では、グローバル統一の行動規範に日本特有の観点を加えたものを策定・運用

研修・啓発を実施し、コンプライアンス意識を醸成

コンプライアンス意識の醸成や実践を促進するために、階層別のコンプライアンス研修に加え、ケーススタディーを用いた研修・eラーニングや動画を活用した研修も行っています。このほか、コンプライアンス活動上で役立つ知識や情報をグループイントラネットを通じて発信するなど、さまざまな啓発を実施しています。

また、毎年6月をコンプライアンス強調月間と定めて、コンプライアンスセミナーや職場ミーティングを実施し、コンプライアンスの理解、啓発を図っています。



会社概要

Corporate Data

■ 本 社 〒105-6927 東京都港区虎ノ門四丁目1番1号
 電話：03-6636-2914（代表）
 URL：https://www.jti.co.jp/

■ 設 立 1985年4月1日

■ 資 本 金 1,000億円

■ 国内支社 北海道支社
 宮城支社
 東京支社
 愛知支社
 大阪支社
 広島支社
 香川支社
 福岡支社
 その他39支社

■ 国内工場 北関東工場
 東海工場
 関西工場
 友部工場

■ 国内研究所 たばこ中央研究所
 葉たばこ研究所

■ 主な連結子会社 TSネットワーク(株)
 ジェイティ物流(株)
 日本フィルター工業(株)
 JT International S.A.

Gallaher Ltd.
 テーブルマーク(株)
 富士食品工業(株)
 計225社

■ 役 員

取締役 取締役会長 取締役副会長 代表取締役社長 代表取締役副社長 代表取締役副社長 取締役 取締役 取締役 取締役 取締役	取締役 岡本 薫明 寺島 正道 筒井 岳彦 嶋吉 耕史 中野 恵 木寺 昌人 庄司 哲也 山科 裕子 朝倉 研二 内田 由紀子	監査役 常勤監査役 常勤監査役 常勤監査役 監査役 監査役	監査役 柏倉 秀亮 橋本 努 谷内 繁 福田 伸夫 武石 恵美子
---	--	---	--

* 取締役 木寺昌人、庄司哲也、山科裕子、朝倉研二および内田由紀子は、会社法 第2条 第15号に定める社外取締役です
* 監査役 谷内繁、福田伸夫 および 武石恵美子は、会社法 第2条 第16号に定める社外監査役です

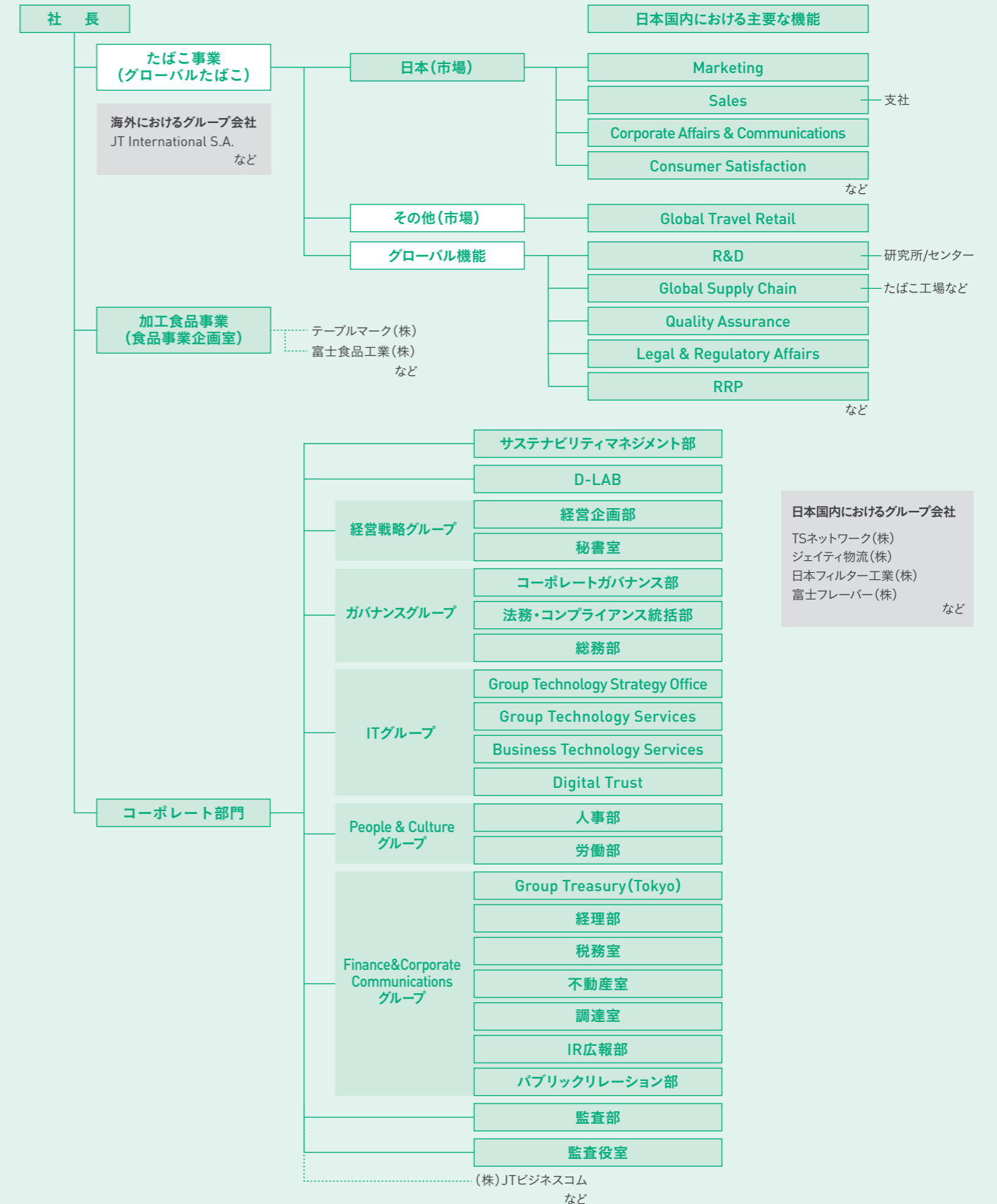
■ 従業員数 (就業人員ベース) (人)


たばこ事業	47,900
加工食品事業	3,906
その他事業/全社共通業務	1,061
従業員数（連結）計	52,867
従業員数（単体）	5,303

JTグループ組織図

JT Group Organization Chart

(2025年12月1日現在)





日本たばこ産業株式会社

発行 2026年5月